



第2部

「施設における、化粧室及び 厨房の手洗いの重要性」

2026年10月15日(木)
ダスキン近畿地域本部

手袋のリスクを見直す

手袋の動画のポイント①

【手袋着用の落とし穴】

⇒ **手袋をしている安心感**

「手が汚れた」「手に何かが付着した」という意識が薄くなる

素手なら気になる汚れも、手袋をしていることで「大丈夫」と考える

⇒「手に**何かを付着させた**」という**意識が希薄化**

手袋を着用した手で調理の途中…

- 冷蔵庫の扉を開ける
- 予約の電話を受ける
- レジを打って会計をする

⇒ 手袋が

食品残渣を**付着**させる ⇒ **菌が増殖（汚染）**

ウイルスを**付着**させる ⇒ **感染拡大**

「**作業ごとに交換**」の意味を、もう一度考える

手袋の動画のポイント②

【アルコール消毒剤への誤解】

⇒「消毒」の過信

- 「スプレーすれば大丈夫」という意識 ⇒そのまま調理に戻ってしまう
 - アルコールには洗浄(洗い流す)効果なし
 - 汚れの上からは消毒不十分
 - アルコールが効かない菌やウイルスも存在する

手袋をしていても**手袋は汚れます。**

食の安全は、一人ひとりの意識から

食品事故の原因物質(お客様にとっての不都合)は3つ

異物

硬質：金属、石、骨、ガラス、プラスチックなど

軟質：樹脂膜、小動物、昆虫など

※毛髪は精神的あるいは営業的危害要因なので、危害要因分析からは除く

コンタミ

アレルギー物質、食品添加物(使用禁止、規定量超過)

ヒスタミン、アクリルアミド、非食品の薬剤(洗剤、殺虫剤など)

食中毒

食中毒菌、ウイルス、腐敗微生物、寄生虫など

食品事故の原因物質(お客様にとっての不都合)は3つ

異物

硬質：金属、石、骨、ガラス、プラスチックなど

軟質：樹脂膜、小動物、昆虫など

※毛髪は精神的あるいは営業的危害要因なので、危害要因分析からは除く

コンタミ

アレルギー物質、食品添加物(使用禁止、規定量超過)
ヒスタミン、アクリルアミド、非食品の薬剤(洗剤、殺虫剤など)

食中毒

食中毒菌、ウイルス、腐敗微生物、寄生虫など

事故原因の入り口 = 侵入経路は3つ

モノ(に付いているもの)

**原材料や他の製品
包材・資材など含む**



食品

ヒト



**(従業員、出入り業者、
訪問者など)**

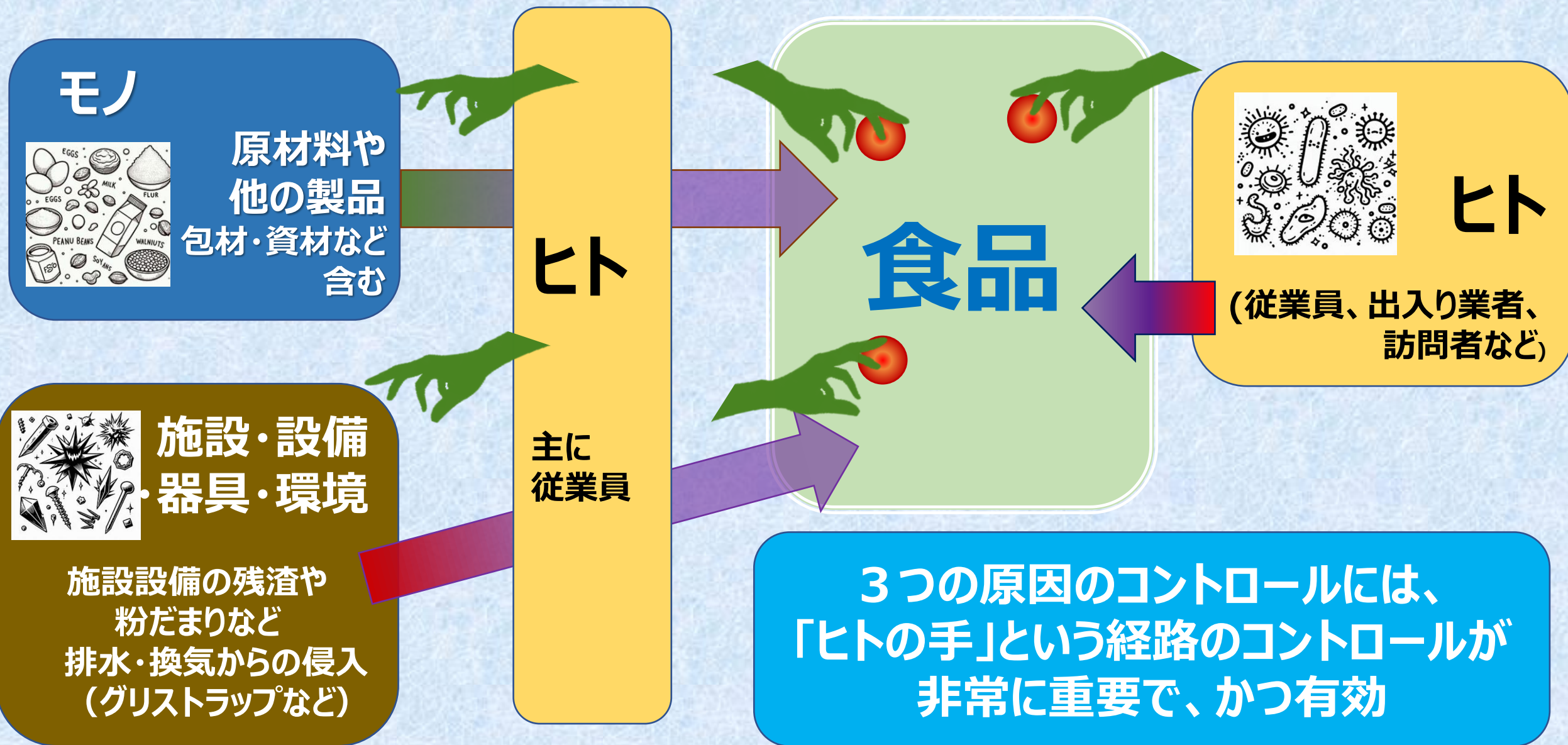
**施設・設備・器具・環境
(に付いているもの)**



**施設設備の残渣や粉だまりなど
排水・換気からの侵入
(グリストラップなど)**

食品事故の発生を防ぐには、 3つの原因と 3つの経路(ヒト・モノ・環境)の コントロールが重要

多くの場合、侵入に「ヒトの手」が関わっている



ウイルス食中毒予防の4原則が参考になる



持ち込まない

製造場所に入れない

つけない

食品や製造環境に
付着させない

ひろげない

現在の作業対象から
ほかのものに移さない

やっつける

取り除く、影響しなくする

4つの防止策と「ヒトの手」の関わり

持ち込まない

入れない

モノ

ヒト

器具設備
施設環境

付けない・混ぜない

増やさない・ひろげない

やっつける
取りのぞく

増やさない・ひろげない

持ち込まない

入れない

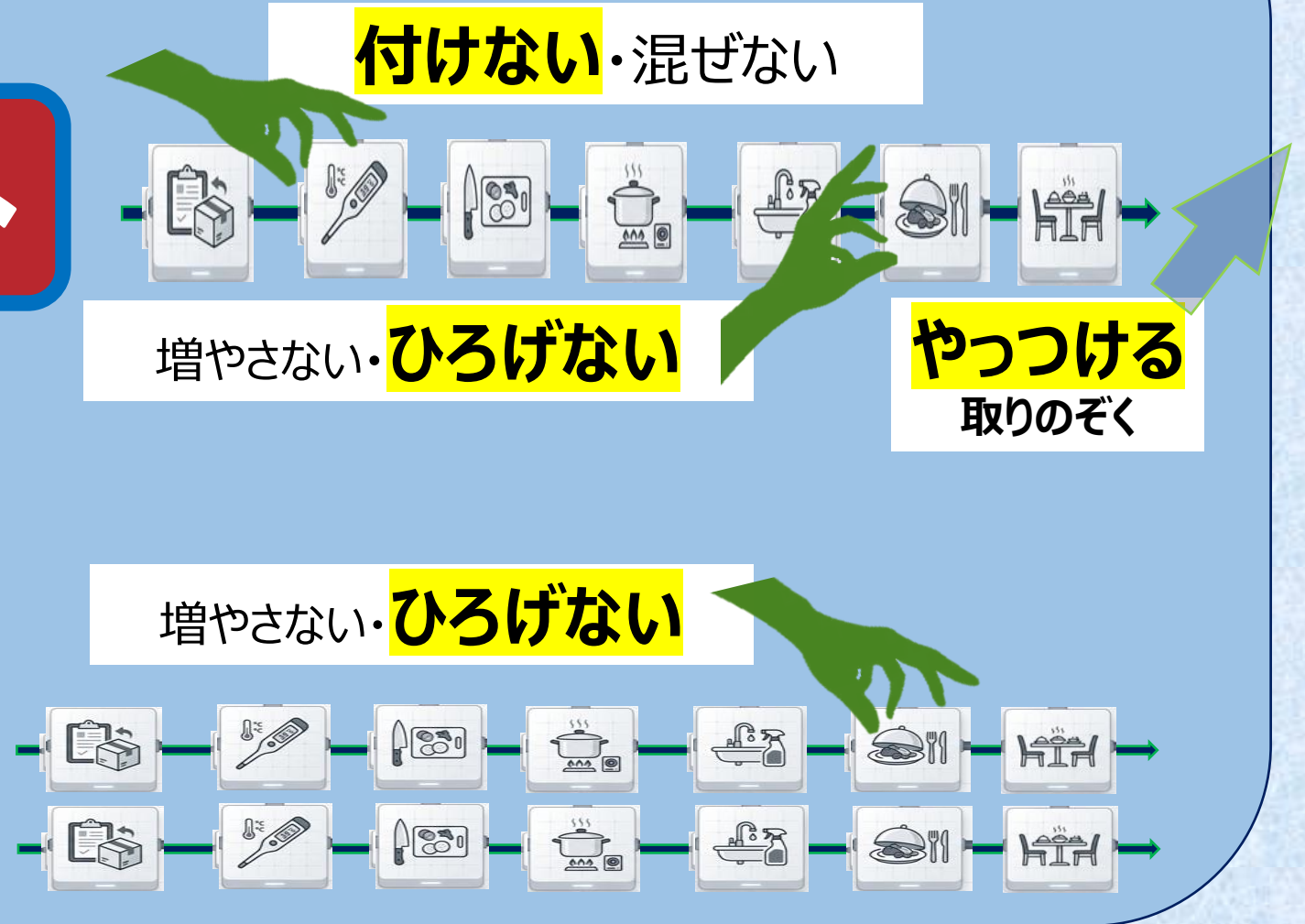
外来の原因

従業員

原材料

設備機器

作業者



まとめ：「手袋」からの汚染拡大防止のポイント

1. 「手袋」の役割の再認識

- ・「ヒトを守るツール」ではなく「**食品を守るツール**」である
- ・「**手袋で触れること⇒食品を汚染するリスク**」という意識を持つ
- ・「**汚染**」は食品事故の原因⇒アレルギーや食中毒菌を転移・拡散させるリスク

2. 拡散を防止する視点での「取り換え」管理

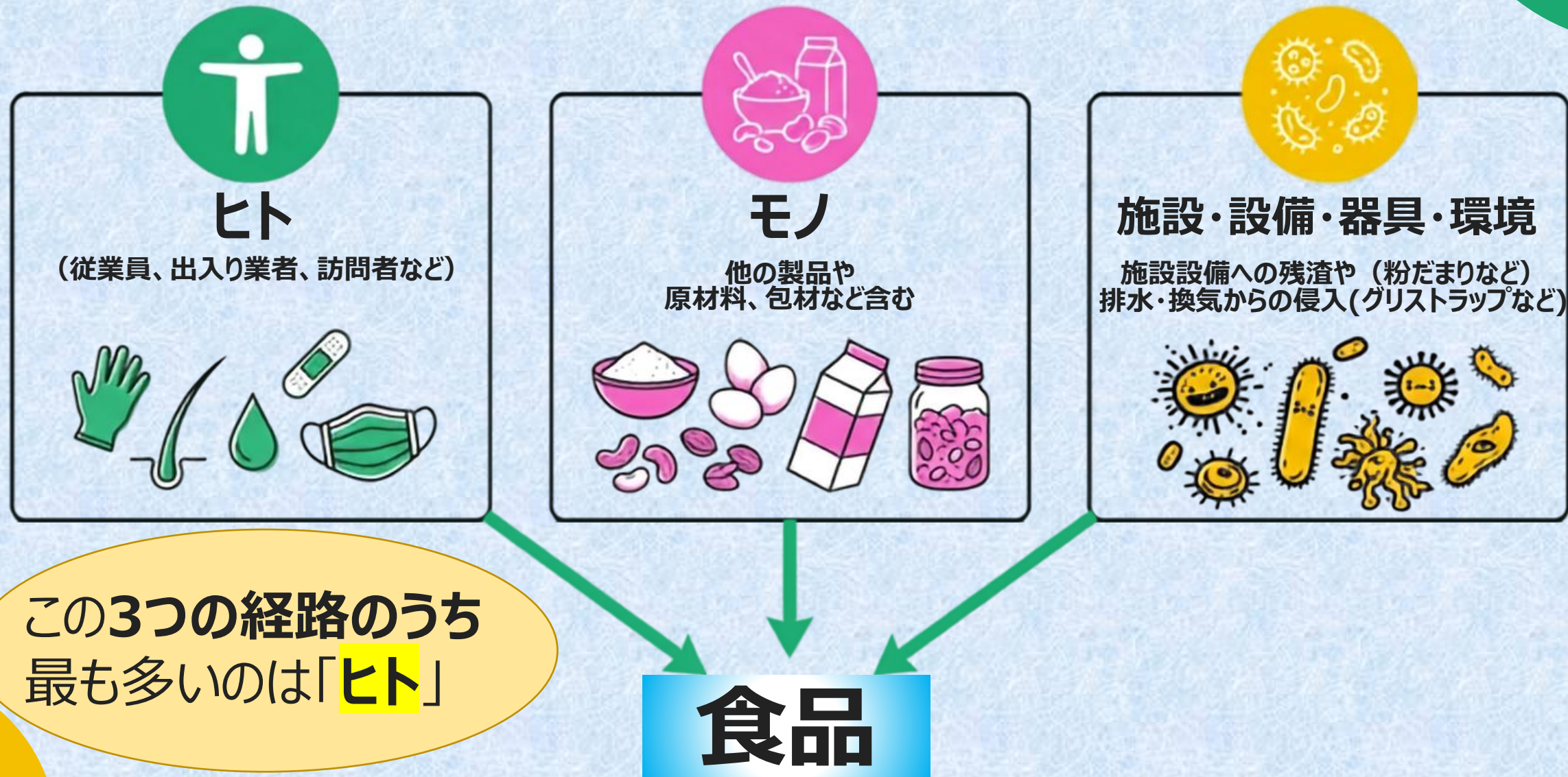
- ・ 手に何かがついたら洗うのと同じ発想 (食品に、清潔な手で触れる)
- ・ 人工物だから、「長時間」には耐えられない認識 (適宜、交換が必要)
- ・ 手袋の中は、「好適な培養空間」という特性 (長時間の連続着用は危険)

3. 「アルコール消毒」万能意識からの脱却

- ・ 蒸発するアルコールには「**洗い流す**」効果なし⇒**手の上から、なくなる**ない
- ・ **アルコールが効かない**菌やウイルスがいる

「手」の衛生管理 ＝手洗いについて

食品事故の入り口＝経路媒介となるモノ・コトは3つ



手洗いは 感染症・食中毒予防の基本

食品の調理は



手洗いに始まり 手洗いで終わる！

衛生的手洗いの実践が重要

食中毒・感染症予防対策はこれしかない！



手の表面ではもともと、
食中毒菌(病原微生物)は**増えない**



さまざまなものに触れることで
病原微生物が**手に付着**する



手に一時的に付着した菌は
手洗いで落とすことができる

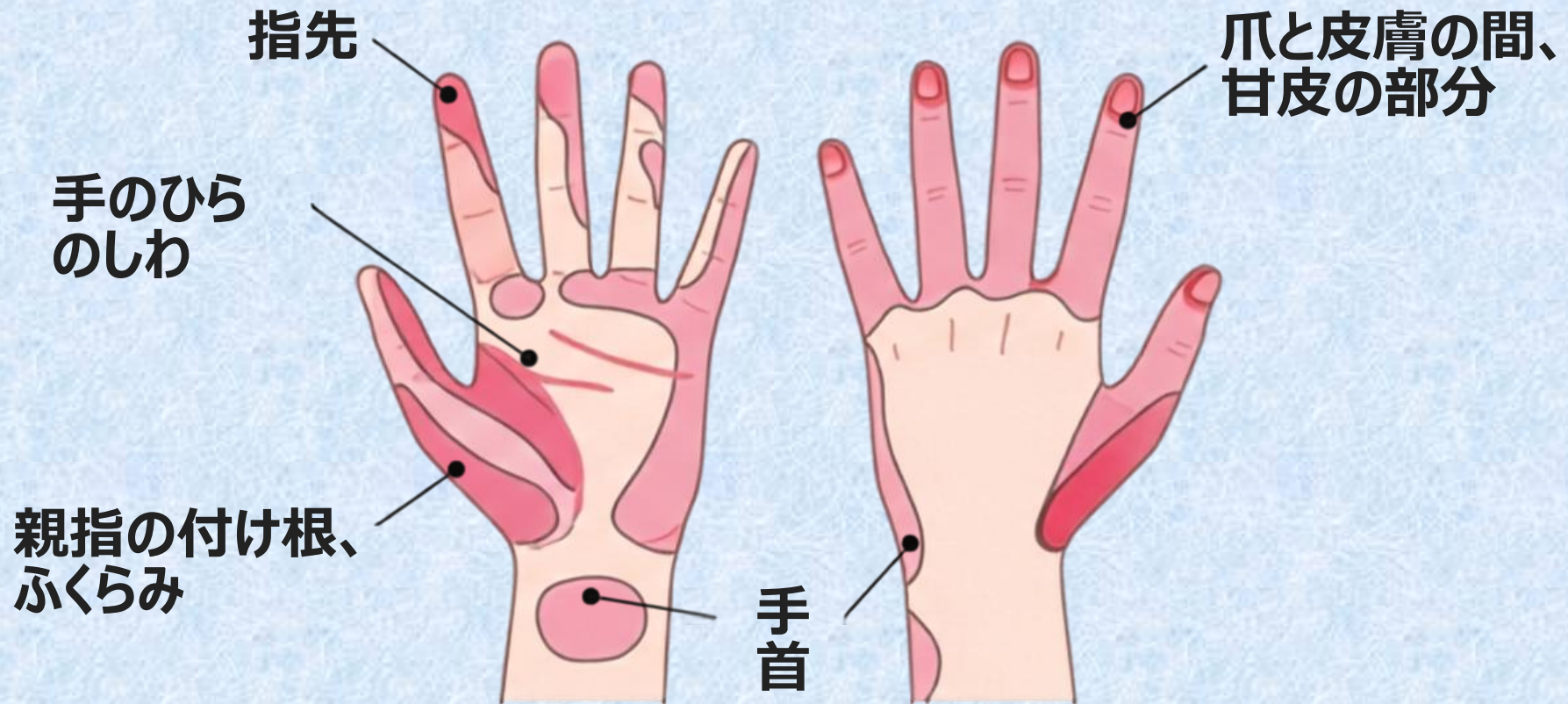


職場での手洗いの重要性

洗い残しの多い部位



ご存知ですか？ サッと洗うだけでは**あちこちに洗い残しが**！



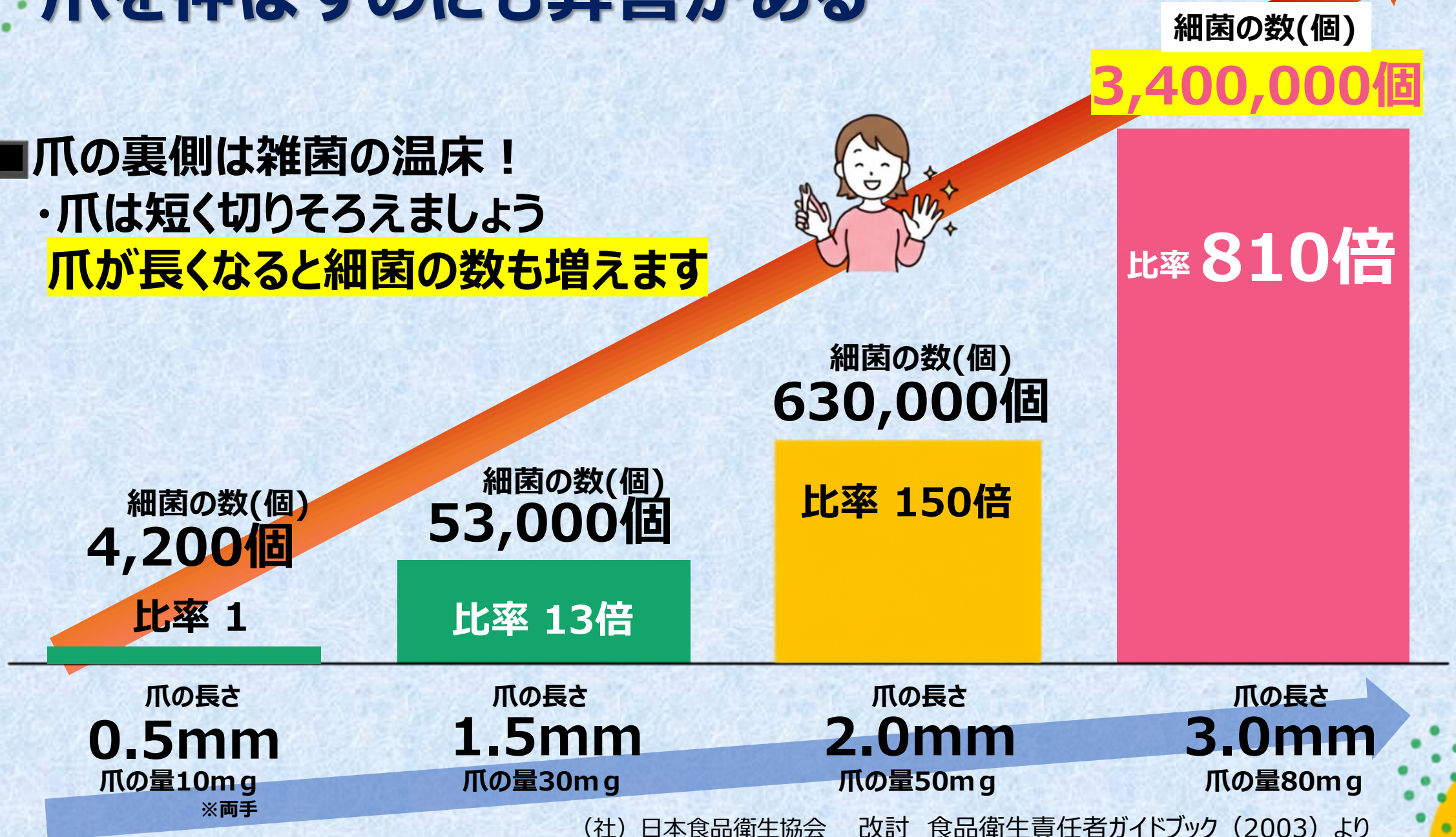
※色が濃いほど洗い残しが多い場所です。

爪を伸ばすのにも弊害がある

■爪の裏側は雑菌の温床！

- ・爪は短く切りそろえましょう

爪が長くなると細菌の数も増えます



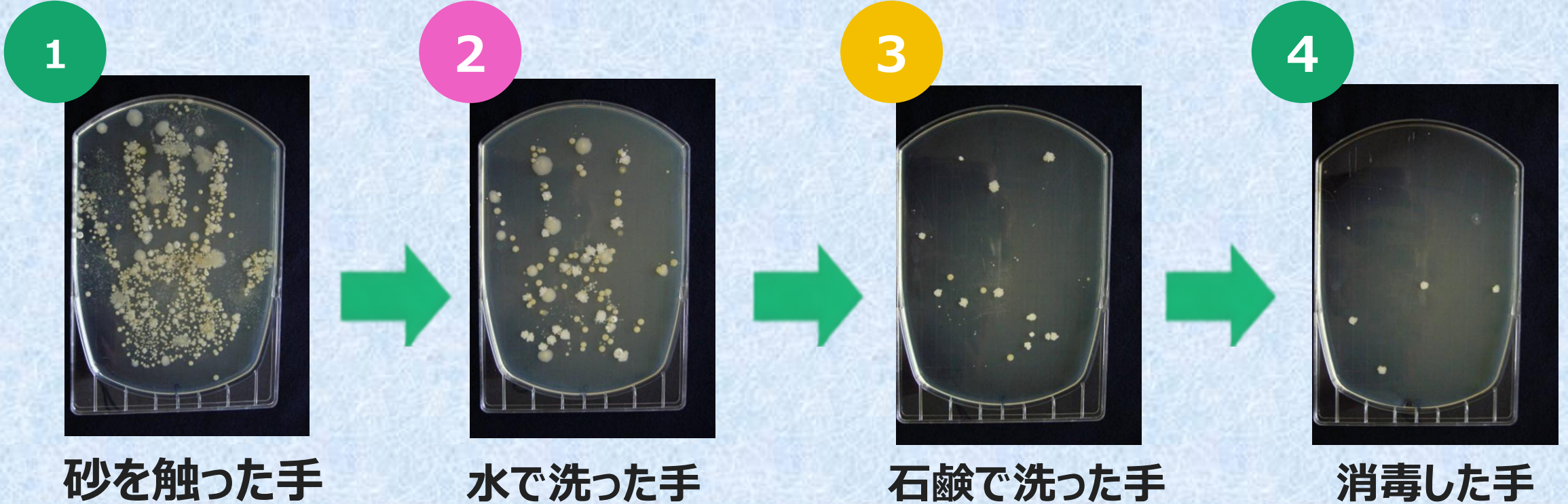
手洗いの効果を見てみましょう！

手洗い パームスタンプ検査

基本的には拭き取り検査と全く同じく
微生物の種類・数を検査できる



手洗いの効果を見てみましょう！



手洗いマニュアルを再評価しましょう

「手」からの感染対策に!基本の手洗い方法

1

流水でしっかり
手指を濡らします



2

ハンドソープを手に取り
しっかり泡をひろげます



洗浄

3

指を組んで両手のひら
甲・指の間をしっかり
洗います



4

指先・爪の間を
念入りに洗います



5

親指をもう片方の手で
包むように握り
親指の付け根まで
しっかり洗います



6

手首からヒジにかけて
洗います



7

手指からヒジまで
よく洗い流します



1

~

7

を

2回繰り返して行います

続けて

8

9

を行います

8

ペーパータオルで
水分をしっかり
拭き取ります



乾燥

9

手指消毒剤を手に取り
乾くまで擦り込みます



消毒

ノ口対応

手洗い手順の詳細説明

1

流水でしっかり 手指を濡らします

手指を濡らす理由は？



この後 せっけん液を手に取ります
手指の表面に水分があることにより
せっけん液が手指の隅々にまで
よくなじんで広がります



手洗い手順の詳細説明

2

ハンドソープを手に取り しっかり泡を広げます

せっけん液のはたらきは？



せっけん液は汚れを浮かして
洗い流しやすくする働きを持った
薬品（食品ではないもの）です
汚れに働きかけるためには
全体に広がっており 汚れや菌に
付着するよう よく泡立てる必要があります



手洗い手順の詳細説明

3

指を組んで両手のひら
甲 指の間をしっかりと洗います

手の甲や指の間を洗う理由は？



手の甲や指の間は 洗い残しの多い箇所です
特に注意をして洗えるよう
手順として意識して洗うよう
習慣付けましょう



手の甲



手のひら

手洗い手順の詳細説明

4

指先、爪の間を 念入りに洗います

指先 爪の間を洗う理由は？



指先 爪の間も汚れの残りやすい箇所です
左の図のように丸めた手のひらで
すぼめた指先を こすって洗うと
汚れが落ちやすくなります



手の甲

手のひら

手洗い手順の詳細説明

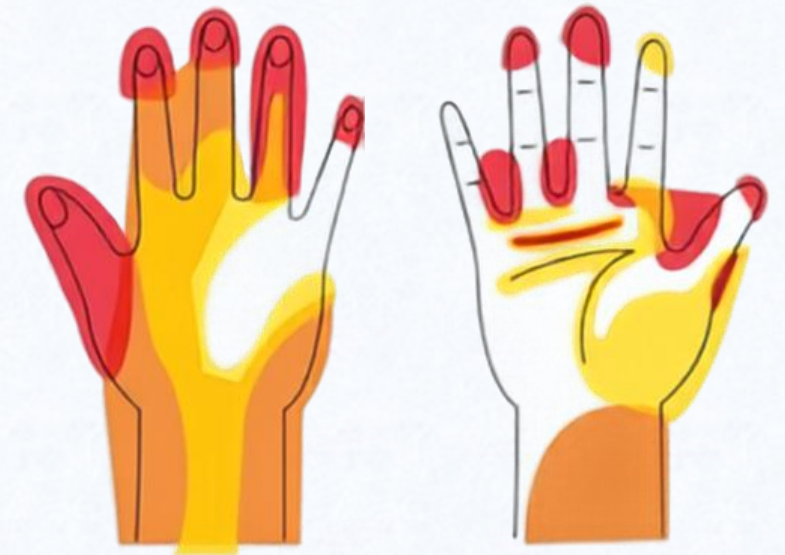
5

親指をもう片方の手で
包むように握り 親指の付け根まで
しっかり洗います

親指の周りを洗う理由は？



親指の周りも汚れの多い箇所です
反対側の手で包み込み 親指と
付け根の周りをぐるりと数回洗います
いろんな食材に触れる職場は
その他の指も洗います



手の甲

手のひら

手洗い手順の詳細説明

6

7

**手首から ヒジにかけて
洗い流します**

手首やヒジまで洗う理由は？



手のひらや手の甲ばかりではなく
手首からヒジなどにも 多くの細菌が
付着しています
手首やヒジも 食材に触る可能性があるため
しっかりと汚れや細菌を浮き上がらせ
洗い流しましょう



手洗手順の詳細説明

1

流水でしっかり
手指を濡らします



2

ハンドソープを手に取り
しっかり泡をひろげます

洗浄



3

指を組んで両手のひら
甲・指の間を
しっかり洗います



4

指先・爪の間を
念入りに洗います



5

親指をもう片方の手で
包むように握り
親指の付け根まで
しっかり洗います



6

手首からヒジにかけて
洗います



7

手指からヒジまで
よく洗い流します



1

～

7

を2回繰り返して行います

続けて

8

9

を行います

手洗い手順の詳細説明

2回同じことをする理由は？

手洗いの後の

アルコールでは殺菌消毒できない

芽胞菌とノロウイルスがいるため

アルコール殺菌できない菌などは
物理的に洗い流すほかにないので
物理的に2回 水で**洗い流します**
(せっけんで2回 浮かせて流す)



手洗い手順の詳細説明

8

ペーパータオルで
水分をしっかりと拭き取ります

水分を拭き取る理由は？



手洗い後の水分には 手のひらから
浮き上がった汚れや細菌が残っています
最後にペーパータオルで**しっかりと拭き取って**
仕上げをしましょう
また、消毒の効果を発揮するために
水分を残さないことが重要です



乾燥

手洗い手順の詳細説明

9

手指消毒剤を手に取り 乾くまで擦り込みます

手指消毒剤を擦り込む理由は？



手指消毒剤が効果を発揮するためには
アルコール濃度が70～80%必要になります
この濃度のアルコールであれば、手指の上で
乾燥するために20～30秒かかるため
効果的に残った細菌を殺菌します

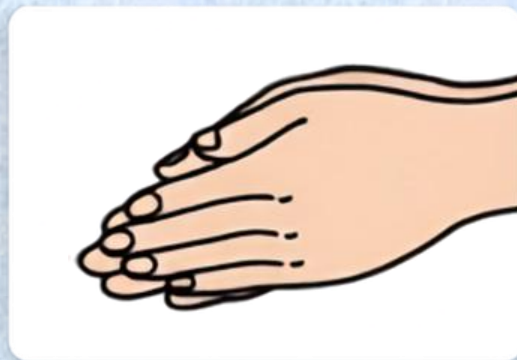


手指の殺菌・消毒について

手指の正しい消毒手順



1 噴射する手指消毒剤を
適量手に受ける



2 手の平と手の平を
擦り合わせる



3 指先を、もう片方の
手の平で擦る（両手）



4 手の甲を、もう片方の
手の平で擦る（両手）



5 指を組んで両手の
指の間を擦る



6 親指を もう片方の手で包み
ねじり擦る（両手）



7 両手首まで
ていねいに擦る



8 乾くまで擦り込む

効果的な手指のアルコール除菌をするために

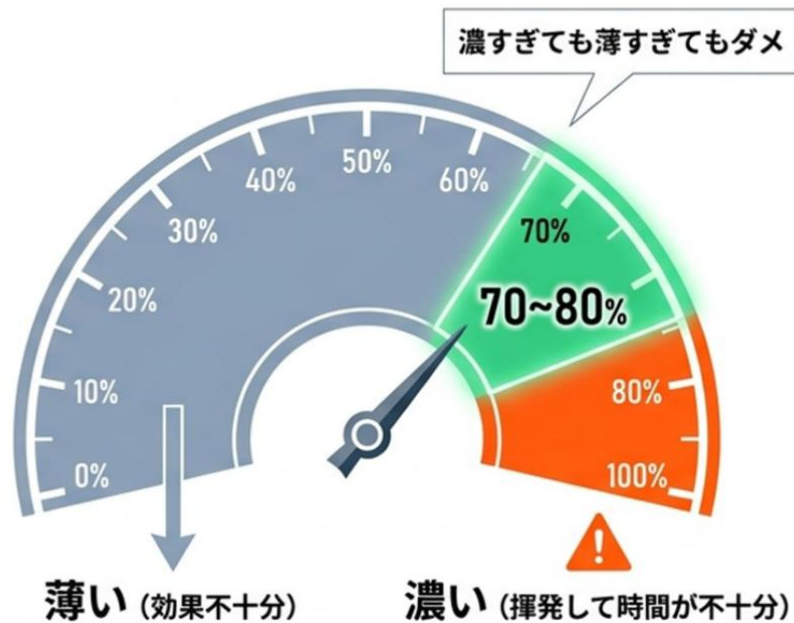
消毒用エタノール

除菌効果 = 濃度 × 時間

+ “量”

1Push 3mL

最も効果を発揮するアルコール濃度



(参考) 濃度単位: 体積百分率 (v/v%、またはvol%)
質量百分率 (w/w%) 量対体積百分率 (w/v%)

手指衛生の全工程時間



(WHOのガイドライン)

効果的な手指のアルコール除菌をするために

除菌できるケース

病原性大腸菌 黄色ブドウ球菌
腸炎ビブリオ サルモネラ菌 など

また インフルエンザウイルス
コロナウイルス など

除菌できないケース

芽胞菌
ウェルシュ菌・セレウス菌
ボツリヌス菌

ノロウイルス

手洗いしても「無菌」にはならない

手袋を再利用してはいけない理由

手洗い直後



手袋使用2.0時間後



手袋使用3.0時間後



赤丸は著しく増えたポイント

食品に直接触れる作業の際
衛生手袋を使用して長時間
作業を行うと、手指表面の

細菌数が
手洗い直後より多くなっていました
細菌数の増加は 特に指先で顕著

手洗いでは除去しきれなかった細菌が
汗等により表面に浮き上がり
手指の細菌数が多くなったものと
推測されます

このような状態で手袋を外して
器具や食材に触れると、それらを
汚染させるリスクがあります